

※地区理事からの意見のまとめ（こちらは北海道吹奏楽連盟には提出しません）

□プレジャーブラス（岩本梓）

初めて、本年早々に統合ありきで連盟より連絡されること大変遺憾であり、もう少しいろいろな事に時間をかけての話し合いを当事者を含めて行うことが必要であると考えます。拙速に物事を進めると混乱と不満が増大することをお考えいただきたいです。

一般BC及び大学BCのそれぞれの統合については、時間的制約及びコンクール当日の観客の入りを考えても昨今の状況を考えてもいたしかたないと思います。しかし、大学と一般を統合するとすると、カテゴリーが違う分野の統合は少々強引な気がします。

大学BC編成の中には高専も含まれており、実質高校生相当の生徒がコンクールに多数参加しているものと思います。他の高校生と同様に全道大会を目指し日々の練習に励んでいると思いますが、これを一般の団体と競わせるのは違和感があります。（高専を高校の部に出場可能とするのであれば大学との統合も良いのかと思います。）

時間短縮を主たる目的として考えるのならば、中学BC及び高校BCのそれぞれの統合も考える時期なのかと思います。BC編成は東日本大会の出場団体を選んでいますが、それぞれ人数・演奏時間が東日本大会と統一されておらず、選ばれた後に人数を増減し、曲のカットの変更を行ったりしていると思います。

さらに少子化の影響か、B編成については地区大会の参加団体が減少しているように思います。（CとAの二極化が進んでいるように感じます）他支部では大編成と小編成でコンクールを行っているところも多く見受けられますので北海道もここで思い切って編成の見直しも時間をかけて考える時期と思います。

いろいろな事を議論して今回の提案をされている事かと思いますが、本年よりの実施には反対を意見させていただきます。本年はまず一般BCと大学BCそれぞれ統合し行ってみてはどうかと思います。（書き忘れましたが職場は一般と一緒に良いかと思います）

この先については、それぞれの編成の事さらに検討が必要かと思いますが、時間をかけての各地区の意見を吸い上げる事が重要と考えます。どうしても今回の提案のまま統合するのであればせめて大学・職場・一般小編成のコンクール演奏時間を6分30秒までにしたいです。（6分だと曲のカットが難しい…）

追記

大学と一般の合併についてですが、練習量が劣る社会人は同じ土俵に立つことは非常に厳しいと思います。一般のバンドの全道大会への道が狭くなるとモチベーションが保てず社会人バンドの衰退ひいては吹奏楽人口の低下に繋がりがねないと思います。

□ヌーベルアンサンブル（橋本公志）

- ・部門の統合 大学以上小編成の部は無理があると思います。職場・一般は仕方ないとして、いくら小編成とはいえ（練習量の違い等々）大学の部と一緒にするという事に対しては反対です。大学・一般の部を別日にする等の方法はないのでしょうか。
- ・見直しをするのは必要かと思いますが。この意味で各地区割りなども含め全体を見直すことも必要ではないのでしょうか。毎年出場校が1つしかない地区については、そのまま代表となっている現状も見直しに含めるべきと考えます。

□遺愛女子高等学校（高久健一）

大会運営をされている北海道吹奏楽連盟理事のみなさまのご尽力には本当に頭が下がる思いです。

この度のコンクール時間短縮の方針の原案も理解はできるのですが、運営負担縮小のために『地区代表数を減らす』というのは大きな問題になることは間違いなくと思います。関係者、関係生徒のモチベーションを下げると同時に、支援者を減らす大きな原因にもなりかねません。

個人コンクールも北海道大会への出場機会が減られ、アンサンブルコンクール、団体コンクールもとなりますと、吹奏楽の活動を広めていく立場の連盟が、奏者の活動機会を縮小させていくというのは矛盾しているものと感じます。

まずは、時間短縮を第一目的とするのではなく、『部門の人数の再編』から見直していく必要があると思います。『A編成の育成』という大きな目標があるのであれば、人数の再編が大きなきっかけ

となると思います。

方法としては、C編成25名上限を『20名』に、B編成35名上限を『30名』にして『B編成の団体のみ東日本大会に推薦』という形にすることで、登録団体数にも変化がでてくると考えられます。それによってタイムテーブルを組み直し、それでおかつ終了時間の問題がでてきたら次の方法を考えるべきだと思います。先に、運営面を理由に代表数を減らし、その後、人数の再編となると混乱を招くだけだと思います。

また、一般団体の場合はB編成とC編成を統合し、『大編成、小編成のみとする』ことについてはやむを得ないと思います。見通しをもった再編であれば、どの地区も納得がいくものと感じます。また、アンサンブルの代表数についても『現行（出場団体の7の倍数）』から変更することがないよう、強く要望したいと思います。

□福島町立福島中学校（小野寺徹）

全道大会の時間削減案に賛成いたします。合わせて東北支部のように、前年度の部員数によって出場できる部門を決定する仕組みも整えて欲しいと考えています。

□北海道函館西高等学校（斎藤英基）

全道大会を運営されている北海道吹奏楽連盟の理事の皆様や、係を担当されている理事の皆様や学生の皆様におかれましては4日間にわたりしかも長時間の運営について相当の苦労があったのだと感じております。深く感謝申し上げます。そのような現場の状況を鑑みての今回の時間短縮の方策については、当事者の立場で全会員が考え、改善策を練らなければならない問題と考えます。

今回の時間削減の方策については、決して無視できない喫緊の課題ではあると思います。しかし、改定しようとしている「部門の統合」については、たった1年間議論を交わして変更になるべきものではないと考えます。特に代表数が増える部門については、全ての団体に周知し、全ての団体が意見を述べるができる場を設け、その意見に対する道吹連からの回答を伝えて、最終的に道吹連が示す改定案に「理解を得ていただくこと」が必要となります。その場合どうしても「最低でも2年以上の時間」が必要にならざるを得ないと考えております。

なんとか、あと2～3年は知恵と力を集結し、この危機を乗り越え、その後に出場団体数を変更することが可能…であるならば、いっそのこと「抜本的な部門の変更」が必要になってくるのではないかと考えます。

特に昨今の問題として

- ①北海道はA編成の出場団体が他支部から比べても極端に少ない。
- ②少子化に伴い、大きな編成と小さな編成への二極化が進んでおりB編成の意義が薄れている。
- ③25名にも満たない小編成バンドが多くなってきている。
- ④地区によっては数団体の中から代表を選んでいる地区もある。

が上げられると思います。そのような状況であれば、部門を全て2つ（大編成（今までのA編成）と小編成（30人以下編成で演奏は6分間を確保）に変更する必要があるのではないかと考えております。20名以下の部門を作っても良いと思いますが、その場合、地区代表数は少なく1団体ほどにし、なおかつ東日本大会には進めず全道大会で終了とするのが良いと思います。しかし、あえてその部門を作らずに「合同チームを奨励し、30人を目指すように」と話を進めるとよいのではないかと考えます。そうすることによって、上記の①～④の問題はかなり緩和されるのではないのでしょうか。（地区の統合や、コンクールの共同開催も必要かもしれませんが…）ただし、30人以上のメンバーが在籍するバンドが小編成に出ることができないような仕組み（在籍登録を5月までに行い、30名以上が在籍する団体（合同バンドもここまでに決定し同様に考える）は必ず大編成の部に出るなど）を作り、ルール違反があったバンドは全道の出場を辞退させるなども必要ではないかと考えます。これは小学校以外の全部門（中学校・高等学校・大学・職場一般）全て適用させれば良いと考えます。今回の案のように、一般の部と大学の部の部門を統合することは、年齢・世代の吹奏楽のスタイルを崩すことになり避けた方が良いと考えます。

この案にこだわるつもりはありません。他の案でも結構だと思いますが、少子化・学校統合の波が押し寄せる現在、今後の北海道の吹奏楽界をどのように発展させるのかを、腰を据えて議論を深める「よいチャンス」なのではないかと考えております。できる限り北海道全体で「全道大会の運営を支える後押し」を行い、助け合いながら抜本的な改革をすべき問題と考えました。

□北海道中部高等学校（高田祥之）

大学B・C 一般B・C それぞれで統合は良いと思います。

さらに、 中学校B・C 高校B・C も統合したら良いと思います。

せっかくですから東日本にあわせた方が良いと思います。もちろん15名くらいであっても上手ければ上位大会に進んでいる様子はいくつも見ます。どうしても残したいのであれば、東京支部のようなC部門（20名以下・ただし東日本へは進めない）を真似したらいかがでしょうか。ただし、各地区1団体だけが北海道大会へ進むということで。中学・高校ともにB・Cを統合して30名までにすることで、A編成の団体数もある程度の確保がされると思います。

□函館市立桔梗中学校（横井真）

全道大会の運営時間削減ですが、基本的には…道吹連の考えに賛成します。これまで運営をされた方々が、人数や労力、経費に限界があると判断されてのことだからです。

基本的には…と書きました。以下は別件になるかもしれませんが。現在のABCの3つの編成は、どのカテゴリーも大小の2つの編成にすることがよいと考えます。特に中学校と高等学校は、全道大会は全日本と東日本の予選を兼ねているので、それぞれの大会と同条件で審査がされて、代表が決定されるのが望ましいです。各加盟団体の大小編成エントリー動向はリサーチしてみなければわかりませんが、もしかしたら運営時間削減にもつながる可能性があるかもしれないと思います。（※また、道吹連が懸念されているA編成の活性化にもつながるかもしれないです！）

なお、これは地区吹連としての意見を吸い上げるだけではわからない数値です。全道の各加盟団体に“もし大小編成だったらどちらにエントリーするか”をリサーチして、地区代表数や小編成の演奏時間など検討をお願いしたいと思います。

□函館ラ・サール中学高等学校（菱沼一哉）

全道大会を運営されている理事長はじめ道吹連理事の方々のご尽力に心より感謝するとともに運営に関する方策案について概ね理解をしている。また、この大会が全日本吹奏楽コンクールの予選であり、各部門のA編成の育成に寄与するべき大会であるということは承知しているが、この大会が北海道の吹奏楽の発展にも大きな役割を担っていると長年活動してきた。しかしながら今回の方策案についての根拠については運営面を理由に全日本の示している部門を統合することに大きな違和感を感じる。また中学校、高校の代表数の変更案も提示されているので、教育現場における影響を最小限にして理解を求めている案であることはわかるが、職場・一般部門や大学部門の軽視にも取れる。職場・一般部門は各団体、生涯学習の場として日々苦勞をし、活動していると推測する。その部門をこの短い時間の議論で統合することは、現在活動をしている児童、生徒の将来にも影響するのではないか。部門の統合は先送りし、まず大学部門、職場・一般部門を大編成と小編成に改定し、その他の部門の編成改変を議論しながら運営については各地区の理事に人的協力を求めているのが現実的ではないだろうか。10月7日付けの第60回大会の予想出場数を参考にして上記改定の代表数を予想すると大学Aが4団体、小編成が5団体、職場・一般A編成が10団体、小編成が11団体となる。残念ながら運営の方々の負担軽減にはならないがタイムテーブル案を参考にし大学小編成の部5団体（6分+入替2分×5団体=40分）を3日目の最後に組むと中Aの終了時間に影響が出ず、入替休憩をはさんでも20時前には終了できる。そして運営については各地区から人的協力、理事の方々の負担軽減のためにアルバイトをお願いする、それにたいして参加団体が参加費などで負担をしていくなど北海道の加盟団体全体で協力していかなければならないだろう。

追記 方策案についての根拠に示されていたA部門出場数の主な支部との比較だが、学校数、人口、組織が違う支部と単純に数を比較しても何ものならないのではないだろうか。学校数、加盟団体数に対してのA編成出場の比率であれば参考になるのでデータを見てみたい。他支部と違って単県（道）で支部になっているのは地理的な理由だと理解している。しかし少子化、人口減が続く北海道になぜA編成の育成が求められているのか甚だ疑問である。

追追記 方策案にA編成の全国大会の予選とあるが小編成、中編成が東日本大会の予選としてこの大会に出場している位置付けははどう考えているのだろうか。全国大会予選であるとともに東日本大会の予選としても編成人数の改定など考えるべきではないだろうか。それとも今後積極的に小・中編成の育成はしないということなのか。方針が見えない。